

盲導犬について

51期生

I テーマ設定の理由

小学生の時1度このテーマについて考えたことがあり、その時に、まだやり残したような、中途半端で終わってしまったような気がしたので、もっと深く考えたくてこの自由研究で取り上げ、真剣に取り組みたいと思いました。また、テレビでも盲導犬やパピーウォーカーの人の番組やドラマをやっていて一段と興味を持ったからです。

II 研究方法

- (1) 文献調査 ライトハウスや関西盲導犬協会からのパンフレットや、盲導犬に関する本を参考にする。
- (2) 聞き取り調査 大阪医科大学の眼科の検査員の方に会い、お話を聞く。
盲導犬を飼っていらっしゃる方に会い、お話を聞く。
- (3) 現地調査 アイマスクをして手引きしてもらい、目が見えないとはどういう事か体験する。
盲導犬を飼っていらっしゃる方とレストランなどへ行き、行動を共にしてみる。

III 研究内容

A. ライトハウス（視覚障害リハビリテーションセンター）

ライトハウスとは『灯台』という意味で視覚障害者の社会参加をお手伝いするところです。福祉施設ですが国からの補助金はありません。昭和40年（1965年）職業・生活訓練センターを開設し視覚障害者を対象とした、日本で初めての本格的なリハビリテーションを開始しました。さらに平成4年（1992年）4月、よりきめ細かな、そして充実したリハビリテーションを目指すため施設を再編成し、新たに重度・重複視覚障害者を対象とする重度身体障害者更生援護施設、および身体障害者通所授産施設を併設し、名称も『視覚障害リハビリテーションセンター』としました。

視覚障害者は単に目が見えない、見えにくいというだけでなく、日常生活に必要な動作など、社会生活を営む上で多大な制限や精神的なダメージをうけ、生きる希望さえも失われます。これらの制限を各種の訓練によってできるかぎり解消し積極的な社会参加を目指していくのを助けることが目的の施設です。

それらの訓練部内の一つに盲導犬事業部というのがあります。

◎盲導犬事業部について

視覚障害者にとって、行動の自由は社会的自立のために欠くことのできないものです。盲導犬は視覚障害者の歩行を安全かつ容易にするために特別に訓練された犬であり、盲導犬によって視覚障害者は大きな行動の自由を得ることができます。

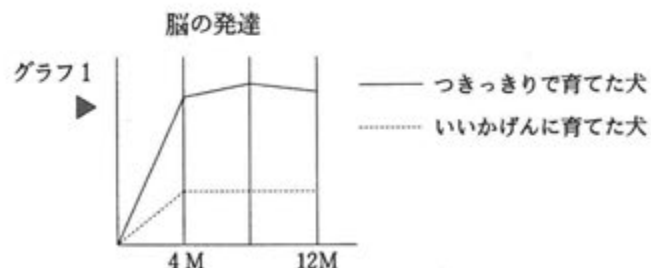
さて、「盲導犬」というと「賢い犬」・「厳しい訓練を受けた犬」というイメージを持つ人が多いと思います。このようなイメージであればよいのですが、「盲導犬が行き先も知っていて、目の不自由な人をつれていく」などのまちがった先入観や知識を持つ人も少なくありません。また社会環境においては近年、盲導犬受け入れの理解が浸透してきたものの、今だに交通機関や旅館、ホテル、飲食店などの入場を断られる場合も少なくありません。盲導犬と共に歩行する視覚障害者が通常の社会生活を営むためには、是非とも盲導犬に関する正しい認識を持ち、理解を深めていかなければなりません。

B. 盲導犬の歴史

- 1916年 ドイツのポツダムではじめて盲導犬の訓練開始。
- 1938年 アメリカ人のゴードンさんが盲導犬をつれて日本に立ち寄った。
日本ではその時はじめて盲導犬を見た。
- 1939年 日本は盲導犬を4頭ドイツから輸入。失明軍人に使わせる。
- 1957年 東京盲人協会の塩屋賢一さんが日本ではじめての第一号盲導犬、「チャンピー」を育てた。
- 1969年 盲導犬は日本国内で8頭に。大阪でデモンストレーションを行う。
- 1970年 ライトハウスから1人オーストラリアへ育て方の勉強をするために留学。
- 1971年 ライトハウス盲導犬事業開始。

C. 盲導犬の育て方

- ①盲導犬は、歩幅が人間と同じくらいの中型犬で、おとなしい犬が適しており、最も多いのはラブラドルレトリバーです。
- ②血統書つきの繁殖犬から生まれた仔犬しかダメで、近親繁殖はぜったいに避けなければいけません。
- ③生後2カ月になるとパピーウォーカー（仔犬飼育奉仕者）と呼ばれるボランティアの家庭に約1年間預けられます。そこで愛情いっぱい育てられると共に、人間といっしょに生活することを通じて、様々な体験をさせます。生後4カ月までは24時間つきっきりでないといけません。グラフ1からもわかるように、4カ月以後は脳の発達がほぼ止まるからです。



☆母親とは生後40～50日頃に離します。

↓
母乳で免疫抗体をつくるので、早すぎてもいけません。しかし、長い間母親のそばにしておくと、自分の身の守り方を教えられてしまうので、主人の身を守ることがおろそかになります。

④その後、その犬は訓練所に戻され、盲導犬に適しているかどうかの16項目に及ぶ適性判定がなされます。適性テストすべてに合格した犬のみが盲導犬になるために、4～6カ月の間訓練が実施されます。その間、視覚障害者である主人が安全で能率的に歩行できるようにするための基本的訓練を受けます。

⑤こうやって盲導犬になれる犬は、10頭中2～3頭のみです。

⑥盲導犬となれた犬は、将来主人となる人と所定の宿舎で一緒に1カ月間の訓練を受けます。これを合併訓練といいます。合併訓練後は主人も盲導犬も卒業です。同時に社会へのスタートラインであり、盲導犬はいつでも主人と一緒に家族の一員です。

～パピーウォーカーの条件～

1. 仔犬を大切に育ててくれる人。
 2. 他に犬がいない家庭。
 3. みな盲導犬を飼うのに賛成している。
- ↑ } ということが必要です。

パピーウォーカーの人には、自分達が育てた犬が盲導犬になり、主人の所へ行った時も、その主人の名前などは一切教えてもらえません。

D. 目かくし体験記

私は大阪医大の検査員の方に、目の見えない人達にどのように接したらいいかということをお聞きしたあと、私自身もアイマスクで目かくしをして、検査員の方に手引きしていただき、約1時間病院内を歩き回り、目が見えないとはどういう状態であるかということを経験しました。



▲写真1 手引きの様子

「手引き」とは左の写真のように自分の手をさし出し、視覚障害者に自分のひじを軽くもってもらい誘導することです。では、私の体験を紹介します。

1. 目かくしをした事で車の音などちょっとした周りの音がいつもよりよく聞こえ、すべてに細かく反応してしまった。
2. 小さな段差や水たまり、マンホールのふたなどが大変大きく感じ、思わず誘導者のひじを強く握った。
3. 階段以外の段差は誘導者のひじが上下することで判断。
4. 一人きりになった時はとても心細かった。
5. 飲み物の残りの量をしらべるため、指を使う。
6. ドアにぶつかっていたかった。

以上、見えないという視覚の遮断により他の感覚がすぐれ、より敏感になったと思います。たった1時間の体験は想像していた以上に不自由な状態であることを身をもって知ることができました。この体験で、視覚障害者を少しだけ理解できたような気がします。ただ、私はアイマスクをとればすぐ見えるようになるけれど視覚障害者の方はそうはいきません。

E. 盲導犬使用者一生の声

今度は、盲導犬を実際に使っている柏木佳子さんという方にお話をうかがうと同時に、一緒に歩いたり、レストランへ入ってみたりしました。

柏木さんは、未熟児網膜症で両眼失明されました。とっても明るい方で、盲導犬の名前はツララちゃんです。天王寺の駅の人ごみの中をスイスイと歩く2人(1人と1頭)には思わずびっくりしました。Q&Aは以下の通りです。



▲写真2 柏木さんと

Q 1. 盲導犬との生活で変わったことは何ですか？

- A 1 気軽に外出できるようになった。
2 行動範囲が広がった。
3 精神的にリラックスできるようになった。

Q 2. 盲導犬をつれていて困ったことは何ですか？

- A 1 レストランやホテルで入るのを断られる時がある。
(ホテルはほとんど断られるが、飲食店は7~8割OKだそうです)

→私達も一緒にレストランへ入りましたが、やはり最初は断われてしまいました。柏木さんは「大丈夫です。」といいながらニコニコと奥へ入っていきました。席につくと、ツララちゃんはテーブルの下に入りこみ誰もその存在に気がつかないほどで、食事中もおとなしくて盲導犬がいるのを忘れてしまうほどでした。

2 犬の体調が悪くて梅田の地下で下痢をしてしまった時困った。

Q 3. 盲導犬を見た時、さわってもよいですか？

- A 1 ハーネスをつけているときや、主人がいない時はさわらないでほしい。



▲写真3 ハーネスをつけた
ツララちゃん

→ハーネスとは左の写真のように、犬の身体につけている白い手網のようなもので、これをつけている時は盲導犬として工作中です。気が散らないようにしてほしいですが、ただ主人にひと言声をかけ、「いいですよ。」と言われてからさわってほしい、とのこと。

Q 4. 私達にしてほしいことや、私達がしなければならぬことは何だと思えますか？

- A 1 盲導犬が仕事の際はさわらないでほしい。
2 犬に声をかけるのではなく、犬の主人に声をかけてほしい。

3 盲導犬に勝手にエサなどをあたえないでほしい。

4 盲導犬が他の人にじゃれついたり、拾い食いしているところを見かけたら、教えてほしい。

5 手引きしてほしい。 などでした。

お話の中で、私が一番印象に残ったのは、「白い杖の時はぶつかることによりわかっていた障害物ですが、盲導犬のおかげで、ぶつからないで知ることができる。」という言葉でした。

F. 盲導犬取得の方法

ここで盲導犬取得の方法について説明します。

1. 社会参加促進事業の一環として盲導犬育成事業を実施している自治体に在住の方は、最寄の福祉事務所に申し込みます。認定された場合、原則として、無料で盲導犬が取得できます。
2. それ以外の場合は直接ライトハウスに申し込みます。この場合、実費負担です。

— 取得者の条件 —

1. 全盲、又は光覚、眼前手動弁程度の視力の者。
2. 18才以上、60才ぐらいまでの者。
3. 犬が好きで独立歩行を希望する者。
4. ドッグフード代が払える者。
5. 合併訓練が1カ月間連続で受けられる者。
6. 家庭環境が整っていること。
7. 事前に実施する面接で適当と判定された者

現在、日本には約800頭の盲導犬がいますが、その数はまだまだ足りません。その理由の1つに費用の問題があります。1頭の盲導犬を育てるのに約300万円かかります。その費用の半分は都道府県からの補助金でまかないますが、残りは募金でまかなわれます。

G. 盲導犬総合訓練センターの見学者のアンケートから。

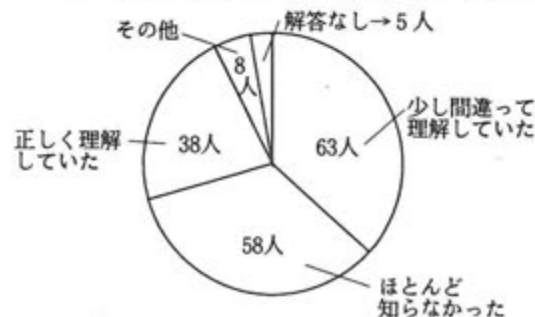
盲導犬総合訓練センターでは市民の人々に盲導犬の理解を深めてもらうために、見学者を受け入れています。

1988年度 1369人 (うち視覚障害者 152人)

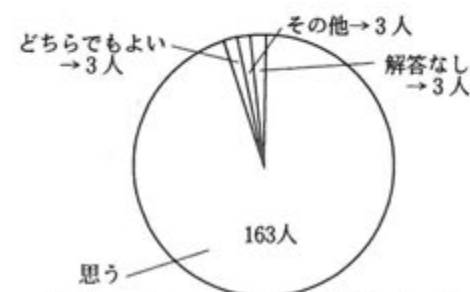
1989年度 1317人 (うち視覚障害者 236人)

1990年度 1288人 (うち視覚障害者 159人)

と、いうようにたいへん多くの市民の人々が盲導犬事業に対して大きな感心があることがわかります。これらの見学者の人々にアンケートをし、回収できた172人名の分についてまとめたのが下のグラフです。



▲グラフ2 盲導犬についての理解度



▲グラフ3 このような施設がふえると、良いと思うかどうか。

グラフ2、3のように、盲導犬に関心のある人の中でも約70%の人々が盲導犬に対してほとんど知らなかった、または少し間違っ理解していたことがわかります。

そして、見学したあと、約94%の人がこのような施設が増えれば良いと思っています。

IV 結論

盲導犬は、視覚障害者の自立のためだけでなく、精神的な面においても、大変素晴らしい犬だということがよくわかりましたが、その育成には、多くの人々の努力と苦勞があることを痛感しました。しかも、盲導犬の数はまだまだ足りないこと、育てるのに多大な費用がかかりその半分は寄付でまかなわれていること、に驚きを感じました。また、世間一般では、かなり理解も浸透し始めているものの、まだまだ充分とはいえない状態です。そこで、私たち晴眼者（目の見える人）が、もっと盲導犬を理解し、盲導犬使用者を助けたり盲導犬育成のためのお金を寄付したりすることが大切だと思いました。そのためには、盲導犬をアピールし、みんなに盲導犬の良さ、すばらしさを知ってもらうよう努力したいと思います。

また、盲導犬使用者に出会った時には以下のことに注意して下さい。

1. 盲導犬使用者は、あらかじめ記憶している地図や道順に従って盲導犬に命令を出し、盲導犬はその命令に従って仕事をします。使用者が判断に迷っていたり、危険な場所を通行する時は、ひと声かけて下さい。
2. 盲導犬がハーネスをしている時は仕事です。近くで騒ぐ、口笛を吹く、食物を与えるなどの行為は決してしないで下さい。もし盲導犬にさわりたい時は、礼儀として、必ず、使用者の許可を得て下さい。

V 総括

私もアイマスクをして目が見えない体験をして、視覚障害者の方の生活の困難さをほんの少しですが理解できたような気がしました。また、盲導犬使用者の生の声を聞くことができたのは、大変よかったと思いました。

柏木さんが盲導犬を連れて歩くと、そこらじゅうから「盲導犬だ。」という声が聞こえました。これらはまだまだ盲導犬がめずらしい、ということを示しているのです。もっと数を増やしていかなければならないと思います。人と人が自然に助け合うことのできる世の中に、私たちが変えていかなければなりません。

私にとって、とてもよい体験になりました。

VI 参考文献

- 「私は盲導犬イェラ」 日比野 清 ミネルヴァ書房
日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンターのパンフレット
日本ライトハウス 盲導犬事業部のパンフレット
日本ライトハウス FORWARD
関西盲導犬協会 ハーネス通信